

児童・生徒の現状・課題

○全国学力・学習状況調査の結果から、計画的な家庭学習に取り組むという回答は、全国平均および東京都平均を大きく下回っており、見通しをもった学習をすることが困難な生徒が多い。

○生徒のコミュニケーション能力に差があり、考えを深める学びへつなげることが難しい。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○生徒が学ぶことに興味・関心をもつために、授業導入や発問を工夫する。

○生徒が自らの考えをアウトプットする機会を、ねらいを明確にした上で適切に設定する。

○学習形態を配慮した上で、生徒同士が学びあう機会を適切に設定する。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

研究主題を「生徒の学び続ける力の育成に向けた授業改革～教師が子供に教えるのみの授業から子供の学びを支える授業への転換～」とし、7月と9月に生徒の学び続ける力を高めるための研究授業を実施し、観察・協議することで実践的指導力を養う。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	目標値(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	75.0	
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	75.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	目標値(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	65.0	
②授業では、児童・生徒が選択した学びを、相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している。	80.0	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

「課題設定」「学習形態」「場所・道具」「情報収集」「まとめ・伝達」「振り返り」の6つの視点から教師がねらいをもって適切に「選択する」場面を設定する。その際は、UDの視点に立ち、生徒がどの視点で選択をするのかを明確にするため、マグネットシートを黒板に提示する。

総括(5月)

昨年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問項目について、よくしている、時々していると回答した人が46.2%と全国、東京都の平均と比べて約15%、「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に関しては61.1%とこれも全国、東京都の平均と比べて5%下回った。これは、家庭学習や授業に対する学習意欲の低さや見通しをもった学習が苦手な生徒が多いこと、生徒自身に目標や目的がない状況に課題があると考えた。そこで、日常の授業において「学習の仕方・学び方の指導」に重点を置き、家庭学習への取組等、生徒自らが学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度の育成を図ることを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)